



農の未来ネット

NO.30

特定非営利活動（NPO）法人「農の未来ネット」

理事長：倉本器征（東京農工大学名誉教授）

発行責任者：田沼 繁（NPO法人農の未来ネット事務局：電話&FAX 042-313-3620）

編集長：西村正昭

<http://www.nou-mirai.org/index.html>

みらい体験農場

収穫米「おらっち米」発送!!

おらっち農場長談

「お米は届きましたか・・・収穫祭でお会いしましょう!!」

「みらい体験農場」農場長

一之瀬 今朝一副理事長

（愛称：おらっち農場長）

みらい体験農場の稲作りの様子は、これまでも紙上でお知らせしてきたところですが、お陰様をもちまして、稲刈りから粃の乾燥調整、精米まで無事終わることができました。紙上をお借りし、感謝申し上げます。今年は、稲作の初年度と言うこともあり、23年度会費をいただいた会員の方々にホンの少々ですが収穫米を配布することと致しました。配布作業は、11月3日（木）に、地主の細田さんの庭をお借りして、田沼事務局長、西村編集長夫妻、細田さん、一之瀬の5名で作業を行いました（写

真1, 2)。当日の天気は曇り空で、昼頃に通り雨のハプニングもありましたが、精米と袋詰め、箱詰め、宛名書き作業などを



【写真1】袋詰め作業

手分けをして行い、庭が暗くなるまでには全ての作業を終えることができました。細田さんには、ネズミのいない座敷に玄米を保管していただいていたので、座敷を占領していたその玄米が出荷できたのでホットしたところです。

今年のお米には、黒ずんだ粒が見られますが、無農薬で育てたことから害虫の影響があったものと思われます。また、素人考えで精米を上白でしてしまい粒が小さくな

りました。でも、コシヒカリ、彩のかがやき、ミルキークインの3品種とも私も食しましたが、さすが味は一級ものでした。



【写真2 箱詰め作業】

今年が一番の心配事は放射能。圃場のあるさいたま市西区の汚染調査は埼玉県、さいたま市が行い、放射能は検出されていませんとの通知がありました。ご安心ください。

さて、来年の取り組みについては、現在、NPO事務局内で検討していますが、早期に稲作の作業計画をお示しする、また稲作のオーナー制を取り入れて、より多くの方に稲作の経験をしていただくなどの方向がだされています。

また同時に、野菜作などの畑作も取り入れて、一年を通しての農作業や収穫物のある体験農場にすることも検討したいと考えています。

会員さまからのご意見をいただきたいと思えます。

インターンシップ 交流会 ～武蔵大学～

農の未来ネット理事 吉田 道行
(埼玉産直センター所属ミニトマト生産者)

11月8日田沼事務局長、濱田広報担当、埼玉産直センター山口専務と吉田で、武蔵大学インターンシップ報告会・懇親会に参加しました。会場には受け入れ企業の担当者が多数参加していました。発表は5名、ほとんどが女性の発表者です。発表ではインターンシップに取り組む目的、企業の概要、受け入れの実態が発表されました。事前に全員のプレゼンテーションが行われ発表者が選抜されたそうです。特に最後の発表者はテレビ番組製作会社に行ったそうで、番組製作の大変さがよくわかりました。



【写真】インターンシップ生の丸野さん(右側)

その後の懇親会では大変光栄なことに田沼事務局長が挨拶にたち、農の未来ネットの紹介をしました。会が終わり自主的な反

省会も行われました。インターンシップの受け入れが次回に続くことを希望しています。

埼玉産直センター 収穫祭参加記

「農の未来ネット」事務局長

田沼 繁

11月12日（土）。昨日の雨が嘘のような雲一つない秋空、ちょっと汗ばむくら



いのお天気の中で埼玉産直センター収穫祭は開かれま

した。参加者は埼玉コープや東都生協など、産直で交流のある家族や近隣の皆さんで、

1千名以上の方々がお集りとのこと。収穫祭のメインイベントは野菜の収穫（写真）

で、夏に種蒔きした大根、春菊、ニンジンなどの野菜が沢山畑に栽培されていて、参加者は思い

思いの野菜を袋いっぱい収穫し、持ち帰りま



した。会場では、焼きそばや豚汁、赤飯などを産直センターの皆さんが手作りし、参加者の親子さん方は、これら食事を美味しく頬ばっていました。10時から13時まで開かれた収穫祭は、あっという間の出来事でした。これからも、楽しい収穫祭の開催を期待していますよ。

<お知らせ>

「みらい体験農場」収穫祭 収穫したお米に感謝！

愉快に心ゆくまで語り合おう！！

農の未来ネットとして、アグリ・ボラバイト（協働授農）事業で、農業・農村に興味のある方々ばかりを農業・農村に誘うだけでなく、「自分たちも農業体験をしよう！！」を合い言葉に、今年4月からさいたま市西区の生産者細田さんのご協力とご指導のもと、一之瀬今朝一副理事長（通称：おらっち農場長）を先頭に2反5畝の農地をお借りして米作りを実施してきました。10月上旬までには、お米を無事に収穫することができた次第です。

これを記念して、稲作りを指導して頂いた細田さんを特別ゲストにお招きし、私たちのお米をはじめ、国産素材を95%使っ

たワーカーズ・フェアビデンの美味しい料理の数々で、今年一年を振り返りつつ、会員の方、いままで活動で知り合えた方々、みんなで楽しくワイワイ過ごしたいと思えます！！。是非ともご参加下さい！！

開催：12月10日（土）

12：00～14：00

会費：1000円（飲食代）

会場：NPO食農研センター ワーカーズ・フェアビデン

千代田区神田駿河台3-5 03-3292-5077

交通機関：東京メトロ千代田線「新御茶の水」駅下車・都営地下鉄新宿線「小川町」駅下車

申込み先：農の未来ネット事務局

メール toiawase@nou-mirai.org

fax 042-313-3620



編集後記

私の友人、知人が東電の福島原発事故により放射能で農地も自宅も汚染されてしまい避難生活を余儀されています。いつ帰れるのか、いつ農業を再開できるかまったく将来の見通しの立たない状況に置かれ、不安な生活を強いられています。それでも農業を続けたいという思いと希望を失わずに「原発ゼロ」の福島・日本をめ

ざして東電と政府に全面賠償を要求して行動しています。10月30日には福島市・四季の里で「なくせ！原発 10・30大集会」が開かれました。私も友人・知人に会って励まそうという思いをもって集会に参加しました。「美しい福島を取り戻し、原発をなくそう」という友人・知人の思いが私の心にじんと伝わってきました。学齢前などの子どもたちが「友達と外で一緒に遊びたい」など、壇上からの切実な叫び、訴えを聞き、子どもたちにも深刻な影響を与えている原発事故の恐ろしさを実感させられました。「原発をなくそう」という思いは私だけではありません。47都道府県から参加し、1万人を超えました。集会の帰り、全国からの参加者は会場から福島駅に向かうシャトルバスを待つために長蛇の列。何台ものバスがピストン輸送してくれましたが、参加者の数が多く、私が乗れたのは約40分後でした。集会で採択されたアピールの最後には次のように呼びかけています。--いのちと原発は共存できません。私に、あなたに、未来につながるいのちに、美しい大地・空・海を引き継ぐために！いま、声をあげましょう！広めましょう！「なくせ原発！」--。野田首相！TPP（環太平洋経済連携協定）にうつつを抜かすのでなく、放射能の除染、全面賠償をやり、被災者・被災地の願い・要望を実現させるべきです。（西村）

